

壺がご神宝？

陶芸の里笠間にある三瓶神社 みかめ

笠間市飯田

笠間は江戸時代から続くやきもの町です。笠間の粘土は、「花崗岩」が風化したもので、足下の土に愛着を持つ陶芸家たちが、今も笠間土を大事に使っています。

また笠間はおいしいお米の産地でもあります。三瓶神社は、市内の米どころの一つ飯田にあります。一二一四年に鹿嶋市の鹿島神宮から分霊したと伝えられ、窯業地の神社らしく、三つの瓶を祀るユニークな神社です。その由来は民話として語り継がれています。

笠間の飯田にある三瓶神社には、イチキシマヒメノミコト、タキリヒメノミコト、タギツヒメノミコトという三人の女神さまが祀られています。境内に三つの瓶が並んで埋まっているので「三瓶神社」なのです。



むかし、今の城里町の徳蔵に、引布山という山があつて、そこに水がたくさん入った八つの瓶がありました。それでその山を「八瓶山」とも呼びました。日照りが続いたある年、鹿島の神さまは、八瓶山の神さまに言いました。

「日照りで苦しむ人々を助けたい。瓶の水を譲って欲しい」
八瓶山の神さまは「どうぞお使いなさい」と言いました。そこで鹿島の神さまは山までびゅっと一飛びして八つの瓶を持ち、鹿島までもう一飛び……のはずが、さすがの神さまも水がたっぷり入った八つの瓶はとても重くて、飯田まで来ると地に降りひと休み。ところが、再び飛ぼうとしたら五つしか持てません。仕方なく三つの瓶は飯田に残したのでした。この時の三つの瓶を祀ったのが三瓶神社だということです。

三つの瓶は、水量が変わらないと言われています。しかし、災いが起こる時は、水が減ったり色が変わるそうです。またその水を子どもたちの頭にかけてと病気にかからないとも伝えられています。三瓶神社は現在も近所の方たちの手で大事に守られています。

※三瓶神社……「みかめ」「みつかめ」二つの読み方があります。

（参考）『笠間』笠間の民間伝説（上）（笠間市生涯学習推進本部発行）笠間市教育委員会生涯学習課編集



【アクセス】笠間市飯田775 ※参拝は自由です。

「運ぶ」を支え、環境と未来をひらく

ISUZU 茨城いすゞ自動車株式会社

本社 / 〒310-0063 水戸市五軒町1-2-5 ☎029-225-1215(大代) <http://www.ibaraki-isuzu.co.jp>